



静岡市

いきもの 散歩マップ

南アルプスユネスコエコパーク
井川自然の家コース(秋・冬)

キノコ

● クリタケ(モエキタケ科)



秋、広葉樹の切り株や倒木上、埋没した材などに束生します。傘は3~8cm、まんじゅう形から平らに開きます。

● チチタケ(ベニタケ科)



夏~秋、広葉樹林地地上に単生または群生します。表面はピロイド状で赤褐色、傷がつくと多量の乳液を出します。

● ニガクリタケ(モエキタケ科)



通年、樹木や竹の切り株などに散生または束生します。傘は1~5cm、表面はイオウ色で中央部は黄かっ色です。

● ニシキベニハツ(ベニタケ科)



夏~秋、広葉樹(ミズナラ)林地地上に発生します。傘は小~中型で、湿るとやや粘性がありツツはありません。

● ヌメリスギタケ(モエキタケ科)



夏~秋、広葉樹の倒木、切り株などに多数束生します。傘は3~13cm、ほぼ球形~まんじゅう形~平らに開きます。

● スギヒラタケ(キシメジ科)



秋、おもに杉の古い切り株上に群生します。傘は白色、ほとんど無柄で、扇形~へら型、側生します。

● サクラシメジ(ヒラタケ科)



秋、コナラ、ミズナラ、ブナ、モミなどの林地に群生します。傘は5~12cm、まんじゅう形から中高の平らに開きます。

● ホテイシメジ(キシメジ科)



秋、カラマツ林内の地上に多数群生します。かっ色~灰かっ色で、柄は下に向かって太くなります。

● ホコリタケ(ホコリタケ科)



梅雨期~秋、林地や草地の地上、朽木に群生します。径2~6cm、高さ3~6cmの球形でベージュがかった白です。

● タマゴタケ(テングタケ科)



夏から秋、シイ、コナラ、ブナ、モミなどの木の下に出ます。傘は6~18cm、卵型から平らに開きます。

● ハナイグチ(イグチ科)



夏~秋、カラマツ林内の地上に発生します。傘は4~15cm、表面はぬめぬめした、赤かっ色で、赤かっ色で、網目状です。

● コフキササルノシカケ(マンネタケ科)



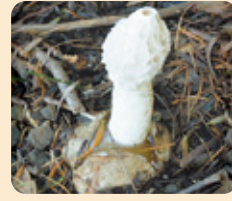
広葉樹の立木や倒木に発生します。表面は硬く、灰白色~灰かっ色ですが、ココア状の胞子で茶色にも見えます。

● ツルタケ(テングタケ科)



夏~秋、マツなどの針葉樹林、ブナ、コナラなどの広葉樹の地上に発生します。灰色で卵形から平らに開きます。

● スッポンタケ(スッポンタケ科)



梅雨期~秋、竹林、庭園、陳内の地上に発生します。頭の黒いところは果物が腐ったようにおおいがします。

● ニカワハリタケ(ヒメキクラゲ科)



夏~秋、針葉樹の切り株や根元に発生します。半円形のへら状で、セラチン質で、下面は円すい形の針でおおわれます。

● ヒメホウキタケ(ホウキタケ科)



夏~秋、針葉樹、まれに広葉樹の落葉、落枝状に発生します。枝は細く、茶色~黄かっ色です。

アクセス情報



【バスでのアクセス】
①しずてつバス静岡駅前北口バスターミナル9番乗場より《安倍線》に乗り。
②「横沢」にて下車。(静岡駅より約81分)
③井川地区自主運行バス《白樺荘方面行き》に乗り換え。(待ち合い16分)
④「南アルプスユネスコパーク井川自然の家」下車。(横沢より約50分)

バスの本数が少ないので、あらかじめ時刻表を確かめましょう。

【車でのアクセス】
静岡駅から約90分(横沢経由)

緊急連絡先

・静岡県救急医療情報センター TEL&FAX:0800-222-1199 (休日・夜間当番医を教えてください。24時間対応)
・消防 119番 ・警察 110番

注意事項

- ・ハイキングでの安全は自己責任でお願いします。季節に合わせた服装、水や食料の準備、緊急時の連絡先の確認など、準備をしっかりとっておきましょう。
- ・里山には、ハチ、ヘビやヒルなどの危険な動物もくらしています。出会ってしまったら、刺激しないよう注意し、ゆっくりその場をはなれてください。
- ・コースの中には私有地が含まれる場合があります。果樹、花や山菜などを無断で取らないでください。
- ・動物も植物も、たくさんあるからといって、むやみにとるのはやめましょう。また、他の土地から動植物を持ち込まないようにしてください。

監修: NPO法人 静岡県環境カウンセラー協会
発行者: 静岡市環境創造課
〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号
TEL:054-221-1319 FAX:054-221-1492
制作年: 平成29年1月

じゅもく

● ウラジロモミ(マツ科)



高さ20~30m、まっすぐに伸び太い枝を横に張り出して三角形になります。樹皮は茶色がかった灰色です。葉は14~26mmの平たい針形でかたいです。

● アカマツ(マツ科)



高さ30~50m、まっすぐかやや曲がりやすい。ほぼ全国で見られます。赤かっ色で、亀の甲のようにはがれる樹皮です。葉は2枚ずつつき、断面は半円形です。

● カラマツ(マツ科)



高さ20~30m、日本だけに自生する落葉する針葉樹です。樹皮は暗い茶かっ色でウロコのようなかけらにはがれます。葉は2~4cmの針型で柔らかいです。

● ゴヨウマツ(マツ科)



樹高20~25m、幹はほぼまっすぐに枝は水平に育ちます。樹皮は若木のころから網目状にさげます。葉は2~6cmで、一か所に5本ずつつきます。

● ミズナラ(ブナ科)



高さ20~30m、特に寒冷地に自生しています。樹皮はたてにさげ、薄い紙状にはがれます。葉は10~18cm、ふちに大きなギザギザがあり、葉の茎がほとんどありません。

● コナラ(ブナ科)



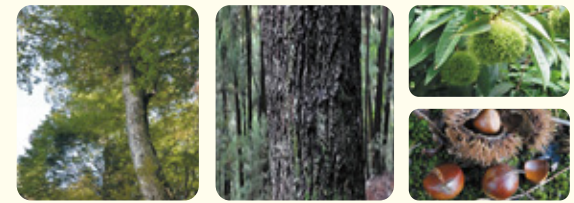
高さ20~30m、里山から山地帯の雑木林に自生します。樹皮は縦にはっきりと裂け目があります。葉は細長くふちにギザギザがあります。ミズナラより柄が長いです。

● ブナ(ブナ科)



高さ30mほどで、枝を広く伸ばします。樹皮は灰白色でなめらかです。葉は長さ5~8cmのだ円形で、ふちには波打つようなギザギザがあります。

● シバグリ(ブナ科)



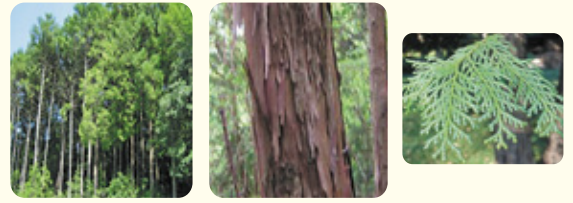
樹高は10~15m、幹はまっすぐに育ちます。樹皮は薄い黒かっ色で縦にさげ目があります。葉は7~15cm、ふちのギザギザの先が針のようになっています。

● スギ(スギ科)



高さ30~50m、円錐すい形になります。日本だけに自生しています。樹皮は赤みがかった茶色で縦にさげます。葉は1cmほどの針型で枝にらせん状につきまます。

● ヒノキ(ヒノキ科)



高さ20~30m、幹はまっすぐに伸びます。日本だけに自生しています。樹皮は赤かっ色で、やや幅広くたてにさげます。葉はうろこ状で、裏にY字の白い線があります。

● トチノキ(トチノキ科)



高さ20~35mのごんもりとした大木になります。樹皮の表面にコルク層が発達します。葉は、手のひら型の複葉で、長さ15~20cm、ふちはギザギザです。

● ホオノキ(モクレン科)



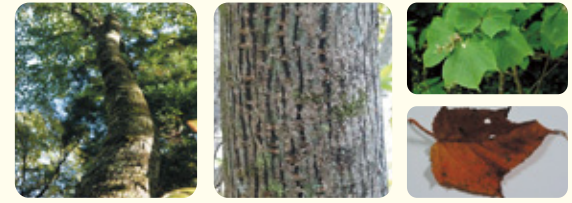
高さ20~30m、根元近くから枝分かれします。樹皮は平らで白っぽく、丸い点があります。葉は20~40cmで、固く厚みがあります。

● ヒメシャラ(ツバキ科)



樹高10~20m、樹皮は赤かっ色でなめらかです。葉は3~8cmで、葉脈は目立ちません。幹は床柱などに利用されます。

● ウリハダカエデ(カエデ科)



高さ10m前後でみきも枝もまっすぐに伸びます。樹皮がマクワウリの実に似ています。葉の先端はすぐとこがり、ふちにも細かい不ぞろいのギザギザがあります。

● カツラ(カツラ科)



樹高20~30m、幹はまっすぐ、枝は斜めに伸びます。樹皮は暗いねずみ色で、若木のうちからたてに割れ目が入ります。葉は3~8cmでほぼ円形です。

● リョウブ(リョウブ科)



高さ5~10m、根元から枝別れし株立ちになります。樹皮が薄くはがれ、白、ピンク、だいたい、かっ色などのまだら模様になります。葉は先端がとがったえん形です。